

奪われない感謝(エペソ 2:1-10)

今日、収穫感謝礼拝とともにささげることができ、また受洗、聖餐式も同時に行うことができたことを心より感謝申し上げます。しかし、多くのクリスチャンが、残念ながら感謝を忘れて、感謝ができないまま教会生活をしているのではないかと思っています。なぜ感謝がないのかと言われると、こんな条件で、このような環境の中で、こういう状況で感謝できるはずがないでしょうと普通に答えるのです。ある意味、理解はできます。皆そのように生きているから。しかし、その人が信者に間違いなければ、条件、環境、状況によって感謝を失っているわけではなく、信者なのに感謝のレベルが未信者と同じレベルに留まっているので感謝を失い、また奪われてしまうようになるということをぜひ心に留めていただきましょう。イエス様もこのようにおっしゃいました。「自分を愛してくれる人を愛したとしても、あなたがたに何の報いがあるでしょうか。取税人でも同じことをしているではありませんか。また、自分の兄弟にだけあいさつしたとしても、どれだけまさったことをしたことになるでしょうか。異邦人でも同じことをしているではありませんか」とおっしゃりながら、あなたがたは世の中では普通でしうけれど未信者、異邦人と一緒にしてはいけないと勧めているのです。一緒にしているから未信者と同じように感謝を条件、状況によって奪われているのではないかという意味です。また聖書を見てみると、「ダニエルは、その文書に署名されたことを知って」、つまり、王が承認されたことを破る人は殺されることになっています。それがわかっていないがらも、「自分の家に帰った。その屋上の部屋はエルサレムの方角に窓が開いていた」。これはキリストに向かってという意味です。「彼は以前からしていたように、日に三度ひざまずき、自分の神の前に祈つて感謝をささげていた」。死の危機の前で感謝していたのです。これがクリスチャンの感謝です。死の危機でさえ、クリスチャンの感謝は奪うことができません。エペソ 1:3 には「私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての靈的祝福をもつて私たちを祝福してくださいました」。感謝ですをどこでうたっているかと言いますと刑務所の中です。刑務所という環境、厳しい状況だからといってクリスチャンの感謝を奪うことができるわけではありません。だから、私たちの頭の中で感謝に対しての概念、イメージを切り替えないといけません。なぜ信仰の先輩たちは条件、状況に左右されないで、感謝を奪われることなく感謝ができていたのでしょうか。どのような感謝なのでしょうか。クリスチャンは何に感謝すべきであり、どのような感謝なので、死の危機でさえその感謝を奪うことができなかつたのでしょうか。そのことを基本の方から確認していきたいと思います。

1. 希望のない罪人の私が救われたことを感謝する。

まず第一に、クリスチャンの感謝は、まったく希望のない罪人の私が救われたことを感謝します。この感謝はどのような状況でも奪うことができません。未信者には見られない感謝です。

なのにクリスチャンが、クリスチャンだけにある、特権でもある、力でもあるこの感謝を忘れて、未信者と同じ感謝に走っているので負けるのはもちろん、現場の人々を生かすすべきなのに、生かすどころかいつも圧倒されるばかりなのです。私たちは聖徒です。聖徒というのは聖なる群れ、聖なるというのは違うという意味です。同じ職場で仕事をして、同じ飯を食っているかもしれません。同じ地球の酸素を吸い込んでるでしょう。けれども私たちは違うのです。それを自覚しないといけません。だから、感謝も違います。まったく希望のない罪人の私、自分にこれっぽちでも可能性があり希望があると思っているならば、この感謝とはたぶん無縁だと思います。残念ながら教会に通っていながらも、無理やり親に押されて教会に通うレムナントの場合は、自分がまったく希望のない罪人だという自覚などはないかもしれません。だから感謝が生まれないかもしれません。感謝といつても「今日、親が地方出張なんでお留守番だ。ラッキー、感謝」という感謝しかないかもしれません。クリスチャンの感謝は違います。皆さん、自分自身に1mmでも希望があると思うのでしょうか。他の人と違って、私はちょっと違うよ。大丈夫なところが少しはあるよと思うのでしょうか。それではクリスチャンとしての感謝にはたどりつけません。

1) 神様を離れ(死)、サタンの罠、枠、足かせに、滅びの運命

私は創造主の神様、私を造られた神様を裏切り離れて、私のたましいは死んでしまいました。その時点で希望などは言及できません。その時点でもうおしまいなのです。神様を知らない、生まれながら神様のこと知らない、知ろうともしない、それが死んだという裏返しであり、それをまた裏返しますと、そのときから自分では望んでいなかったでしょうけれども、悪魔サタンの奴隸なのです。だから神様を離れて、たましいが死んでしまったので、悪魔サタンが作った落とし穴に落とされてしまいました。そのときから神様なんかは全く無視して、私中心で目に見えるものがすべてであって、この世の成功が目標になる、そういう落とし穴に落とされて、神様には絶対会えないように、自分、自分、自分なのです。なぜ自分中心が悪いのでしょうか。神様に会えないようにしてしまった悪魔の落とし穴なのです。見えるものばかりにこだわることがなぜ悪なのでしょうか。それでは神様に会うことが絶対できないからです。永遠の世界があるのにこの世がすべてだと思うと、絶対神様の方には行けなくなります。世の中では普通でしようけれども、これが悪魔の落とし穴なのです。そして、さらにそれに力を加えて、私たちが抜け出せないように枠を作つて閉じ込めてしまいました。宗教にのめり込むように。宗教が良いか悪いかではなくて、宗教に入つてしまふと、神様とは縁が切れてしまふ。神様とは反対の方向に行く手段なのです。偶像崇拜という枠に閉じ込めてしまいます。絶対出られないように。占いやシャーマニズムのような枠に閉じ込めてしまいます。出られないように。神様の方に行けないように。イデオロギー、思想等に閉じ込めてしまいます。そうなつてしまふと、自分で望んでそうしたわけではありません。悪魔のしわざに捕らわれ、生まれながらそうなつてしまふと、すべての人が生まれながらその問題を抱えて、精神的にもおかしな状態で生れてくるわけです。このような背景をもつてその人の世界を形成し、何かのきっかけによってそれが現れ爆発するだけであつて、そのきっかけが問題ではありません。なのに、悪魔は最後の最後まで親が問題なんだ、いじめが問題なんだよ、障害が問題なんだよ、あなたをだれかが裏切つた、それが問題なんだよと、そのきっかけにその人の心を捕らえて、精神を捕えて、絶対に本当の問題を知らないように、神様に行けないように悪霊どもを動員し、人の考えの中に入り込み、その人の考えを操つて支配しているのです。そういう者でした。特別に麻薬中毒になつて、あるいは犯罪を犯して刑務所に入つてゐる人の話ではありません。ユダヤ人も異邦人もすべての人がです。教会に通つてゐながらも、自分はそんなはずがないと思っているから感謝に繋がらないのです。一般的の感謝に留まるわけです。なので当然、生まれながら、あなたがたは父である悪魔から出た者で、悪魔の子どもとして滅びの身分を抱えて生まれるので、うまくいくはずがありません。精神的におかしくなり、肉体的に蝕まれて、人間関係が壊れて、家庭が崩壊し、さまざまなもののが全部崩れていき、最終的にはむなしい人生が終わり、地獄に落ちるしかありません。生まれながらその運命を持って生まれたのです。事故に遭つて人生が狂つたわけではなく、人間と言うのはそつたらざるを得ない運命を持って生まれてきたわけです。神様を離れたということはそういうことなのです。キリスト教は宗教ではありません。このようにどこを見ても神様に選ばれるような見込みが全くありません。滅びること以外には何も見えません。だから自分のレベルで考えると、神様は頭が少しおかしいか悪いかなと思います。あるいは計算力がないか、視力がとても悪いのか。なんでこんな者を救われるのでしょうか。こんな地獄の子をなんで...。しかもキリスト・イエスを犠牲にしてまで私をなぜ救われたのでしょうか。理解できません。神様がおかしいのです。理解できません。こんな私に目を留めるということは。それで感謝するしかありません。理解する訳ではありません。

2) 恵みによるキリストの犠牲

だから、人間の言葉で表現できる単語は、恵みのほかにはありません。だから恵みと言います。理解できないから。皆さん頭で理解しようとすると一生かかるとも理解できません。だから、感謝するわけです。この感謝は何がどうであれ、自分の命が奪われてもこの感謝は奪われません。地獄の門の前に立たされたとしても、この感謝をささげます。刑務所に入れられていつ出るか分からない状況でパウロとシラスは賛美をささげました。なぜならその刑務所の状況がこの感謝を止めることはできないからです。これがクリスチヤンの感謝です。何に感謝していますか。何に不満なのでしょうか。

3) 信仰により

なので、私たちには救われる条件など1mmもないということを最初からご存知の上でキリストを犠牲にされたので、私たちにはこれしか言われません。信じる者は救われるよと。ただ恵みのゆえに信仰によって

救われる。それが感謝です。もしこういう条件で、これを満たさないと、これさえあればと言われるに、私はもうはなから希望のない存在です。ただ何の要求もしないで、条件など一切なしで、ただあなたのためにわたしがキリストを通して全部やったのでもらいなさいよ。もらいなさいよ。だからあなたがたから出たものではなくて、神様からの賜物、プレゼントなんだと表現しているわけです。これがクリスチャンの感謝なので、この感謝は奪われることも失うこともありません。もしを失ったとすれば、その瞬間、悪魔に騙されてやられた瞬間です。どんな理由があれ。

2. 神様が私のいのちであることを感謝する。

1) ヨハネ 14:16 2) I コリント 3:16 3) ローマ 8:15 4) エペソ 1:3 5) II コリント 5:17

これだけでも奪われない感謝の主人公なのに、それに終わらないで、この救いを通して二番目です。神様ご自身がこんな罪人だった私を救わえて、私のいのちになられました。それが感謝です。

神様ご自身が私のいのちになったということは、私の内側に入っていつまでも離れることなく一緒におられることになりました。このことによってうわべが変わっていなくとも、どんどん変わっていくでしょうけれども、それと関係なく、根本的に基本的にがらりと古いものは過ぎ去り、新しい被造物になったわけです。それが根拠です。御子を持つてはいる者はいのちを持っている。御子を持たない者はいのちを持っていません。皆さんの性格が変わって、人が立派に変わったから褒められるのではなくて、それで新しい人になるのではなく、キリスト・イエスを信じて受け入れた瞬間、古いものは過ぎ去り、すべて新しくなります。なぜでしょうか。私が変わったからではなくて、悪魔が去っていき、いのちである神様ご自身が私の内側に入り私のいのちになったので、私は別の新しい存在に造り変えられたわけです。これがイエス様を信じるということです。皆さんの弱さによってフラフラ揺れないように。場合によって失敗するかもしれません。同じ失敗を繰り返すかもしれません。だから、私は信じてもだめなのかなとキリストの救いに効力がないかのように、キリストの救いが無駄であるかのように思うことは悪魔の偽りです。逆にだからこそキリストにすがること以外は道はありません。わかっているながらも同じ失敗を繰り返す人間だからキリストが十字架で代わりに死んだわけです。それを自分でどうにかできるのであれば、イエス様が十字架で死ぬ理由はありません。いつも悪魔は逆に考えさせます。偽りなのです。それでもキリスト、だからキリスト、結局キリストにならないといけません。いのちでした。イエス様がおっしゃいました。「わたしが父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与えくださり、その助け主がいつまでも、あなたがたとともにいるようにしてくださいます」。この助け主は聖霊様のことを言います。聖霊が私たちの内側に留まるということは、三位一体の神様が一緒にいらっしゃることなのです。だから、クリスチャンは「あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか」。イエス様が預言されていたことばが成就されました。イエス・キリストを信じることでこれが感謝です。私はいま死の影の谷を歩いているのに、私は病を患っていて通帳には二桁しか数字がないのに、三位一体の神様が私のいのちなのです。なんにも問題になりません。神様に勝てるような問題はありませんから。私たちが勝手に問題だと思い込むだけなのです。なぜならこの感謝が薄いからです。何に感謝していますか。寝てる時でもこの感謝に溢れた場合には、眠気が飛んで行きます。こんな希望のない者を主が救われただけではなくて、聖なる神の神殿として全く新しいものに造り変えられたなんて...。「あなたがたは、人を再び恐怖に陥れる、奴隸の靈を受けたのではなく」。もし神様がいのちでなければこのような奴隸の靈が宿る者なのです。「子とする御靈を受けたのです。この御靈によって、私たちは「アバ、父」と叫びます」。これがいのちです。いのちあるものは神様のことを父なる神様、お父さんと呼べるわけです。なので、当然先ほども申し上げましたように、神様ご自身が一緒なので、エペソ 1:3 「私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。神はキリストにあって、天上にあるすべての靈的祝福をもって私たちを祝福してくださいました」。これが神様が私のいのちであるがゆえに私のものなのです。いま目の前にお金が入ってこないから、これが私の祝福ではないかのように思うかもしれません、だからこそ思わないといけません。これがクリスチャンの感謝です。この感謝は奪われることがあります。先ほども申し上げましたように、だからパウロは言います。キリストにあって古いものは過ぎ去り。神を知らないで滅びるしかなかったそのときの考え方は全部無視してください。すべてが新しくなりました。神が私の内側に宿っていらっしゃるから。うつかりすると既存の教会ではこの話があまりないので。批判の意味ではなくて。私もそこにいたので。キリストを信じて感謝なので、こんな罪人を赦してください。

ださったので、これからお返ししていかないといけないという感じなのです。そんな能力が私たちにあるのでしょうか。それが可能になるために内側に入ってこられた。なぜ内側でしょうか。御座の祝福を注ぐためです。そうでなければ自分の勝利どころか、他の人を生かすことはもちろん、自分自身の勝利も期待できません。私たちには何もかも不可能なのです。だから聖霊が臨まれると神の国の約束をされました。この感謝が本当にその人に喜びとして溢れるようになれば、当たり前なのですがこの感謝に移ります。

3. 他人を救う最高に価値あることに用いられることを感謝する。

1) マタイ 28:19 2) マルコ 16:15-18 3) ヨハネ 21:15-17 4) 使徒 1:8 5) エペソ 1:23 6) I ペテロ 2:9

なるほど、私はダメな人間なんだけども、神様ご自身が私のいのちなので、だから私のどうのこうのと関係なく、他人を救うための最高に価値ある人生に用いられるようになるんだということを感謝するわけです。

今までではお金を目的に、家庭の平和を目的に、いろいろな自分なりの夢と目的を持って生きてきたでしょうけれども生きる理由が変わります。何が価値あるのかが変わるので。使命に生きる人生になります。わかったので。自分を救われて、自分をそのように変えられた救いの祝福が何かわかつて感謝している者は、他人を救う福音宣教、これこそが最高の価値でこれに用いられるのです。誰がでしょうか。クリスチヤンであれば誰でも。昔、旧約のときには祭司だけが礼拝をささげたりしていましたが、いまはキリストが内側にいらっしゃるからみな祭司なのです。みなが伝道者です。それで何が感謝なのかというと、マタイの福音書を見ますと、「ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け」。237、5000未伝道種族の方に出向いて、そこで弟子を探し求める絶対やぐらを建てる、そこに私たちは召され用いられることになります。私たちの力と条件、状況と関係なく、神様ご自身が私のいのちなので、当たり前にこの答えの主人公になります。それが感謝です。そして、その福音宣教のためにマルコの福音書を見ますと「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。信じてバプテスマを受ける者は救われます。しかし、信じない者は罪に定められます。信じる人々には次のようなしるしが伴います。すなわち、わたしの名によって悪霊を追い出し、新しいことばで語り、その手で蛇をつかみ、たとえ毒を飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば癒やされます」。この最高の価値、福音宣教という使命のために悪霊を追い出して病気を治す権威が授けられるようになります。これが感謝です。私には能力ありません。私はダメな人間かもしれません。しかし、三位一体の神様が、すべてを完了なさったキリストであるイエス様が私のいのちなので、キリストの御名によって悪霊を追い出す権威が。皆さんを邪魔して考えの中に入り込んで、いろいろちよつかいを出している悪霊に対して他の方法はありません。キリストの御名によって追い出すことです。キリストの御名をずっと呼び続けることです。私の考えを捕らえて私を操っているこの悪霊は、キリストの御名によって出て行けどみことばを握るわけです。皆さんの考えは普通に自分で考えるからそう考えるんだと思うのでしょうか。その考えが神様の方に、キリストの福音の方に、信仰に向かない考えであれば必ず悪霊の働きなのです。悪霊は今も24時間働いています。だから私たちも24時間キリストなのです。その権威が私たちに与えられているのです。ヨハネの福音書21章を見ますと、「わたしの子羊を飼いなさい」。この使命を持って次世代、レムナントにこれを伝えて継承させる、そのような使命が私たちには許されています。聖霊が臨まれると力を得て、このためにひとりひとりに聖霊の力が豊かに臨まれることが約束されています。私たちの力ではありません。条件、状況など言い訳にする理由もありません。条件が悪ければむしろよかったですと思うのが祈る人なのです。なので、このような最高の価値、人のたましいを救い出すための伝道者としての使命に召されていることを感謝します。なので信者に向かって聖書はこのような言葉を使っています。キリストのからだなる教会。キリストはからだであって、それにくつづいているからだなので、キリストのいのちが流れてキリストがなさることが手と足を通して実行されるようになり、それをキリストのからだなる教会と言われます。自分の力と関係ありません。

最後に一つ読み上げます。I ペテロ 2:9、こういう感謝するしかない使命が与えられ、その道に召されているので、私たちのことをこのように呼んでいるのです。「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです」。この最高の価値ある使命の

道を歩くために必要なすべてが与えられています。感謝ではないでしょうか。疑わずに迷わずに皆さんの現場においてこの祝福を感謝して、現場の人々をひとりひとり分析しながら。分析というのは突破口、つながりを見つけるためなのです。答えはもう明白なのです。みな救われないといけない人間なのです。みな悪魔のしわざに捕らわれている人種なのです。キリストが答えです。みな騙されているのです。どこにどういう風に騙されているのかを見分けるために分析するだけなのです。ある人は傷に騙されて、ある人は親に騙されて、これが問題だあれが問題だと。サタンは偽りのものであり、偽りの父と聖書は明言しています。偽りです。嘘ではないけれど間違いでなのです。親に虐待されました。それが問題でしょうか。嘘ではないけれど間違いなのです。虐待が問題ではありません。生まれながら神の御怒りを受けるべき子らとして生まれて、悪魔がその人のたましいと考えを支配していることが問題なのです。なので、そういう運命にひっかかるようになるのです。問題を間違えてしまうと、答えが全くずれてしまうのでキリストの答えを隠してしまうのです。いくら一理ある話、また事実であってもキリストを隠すものは全部が偽りであり、それを偽りの父、悪魔、悪霊のしわざだということに目が開かれてはいけません。そうしないと人々を助けることができません。私たちはそれが可能なものとして召されたわけです。これが感謝です。

まとめます。この感謝のある信者が間違いなければ、その人はマタイ 6:33 を握ります。何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、今まで求めて望んでいた、追求していたすべて全部を捨てて、神の国と義を求めて行くんだと。それを握って、条件、環境、状況に対しての不満、不平、言い訳など全部捨てます。そして、祈ることは一つです。今日 3 つの感謝を申し上げました。この感謝の内容が自分に実際に現れることを信じて期待して祈ります。それが証人になるという意味です。いま感謝の内容を申し上げました。礼拝が終わった後も、本当に自分の感謝はどうなっているのか、私にはこの感謝があったのか、この感謝を確認しながら、自分自身に実際に現れるように、そして、この感謝の内容が他の人に成就されるように祈るようになります。それが他の人が救われることなのです。その結果を見て、さらに感謝が溢れるようになるでしょう。感謝プラス感謝プラス感謝プラス感謝なのです。それがクリスチヤンです。そのとき悪魔、悪霊はおしつこチビって逃げていくわけですね。ぜひ皆さんにこのような感謝が回復できて、実際に感謝の祈りをささげ、期待して、皆さんと関わっている人々、現場から聖書にある通りの神の国わざが現われる、暗闇が碎かれていくのちの動きがあるそういう答えが見られることを期待し信じましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。収穫感謝礼拝を通して、信者の自分の感謝はどんなものだったのかを吟味して、それをすべて修正して、信者の特権でもあるし、未信者とは異なる聖なる感謝の内容を確認して、それをもって祈り、証人としてひとりひとりが用いられるように祝福を与えてください。御座のキャンプの答があり、礼拝をささげて集中しているときに、関わっているすべての現場の暗闇が碎かれて、神の国のことがなされる、その期待と信仰をもって礼拝の祝福に預かるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。